

# CVIT2022 参加報告

華岡青洲記念病院 山口隆義

皆様こんにちは、華岡青洲記念病院の山口です。気がつくともう8月となり、暦上は北海道の夏の短さを感じる所です。しかしながら、最近暑さが9月まで長引いている印象で、おそらくこれからが夏本番といった所なのでしょう。

2022年7月21日から23日まで開催されたCVIT2022（第30回日本心血管インターベンション治療学会）に参加してきました。今回はハイブリッド開催という事で、演者と座長は学会場であるパシフィコ横浜ノースに集合せよ！というアナウンスであったため、航空機の手配とホテルの予約、そして座長を担当するセッションの質問を考え、準備を整えておりました。しかしながら、ご存知のように第7波が襲来し、開催直前に参加者全員webで良し！という事になりましたが、webで参加してもオンデマンド配信は無く、ライブのみという事でしたので、思い切って現地参加としました。

JRCではお馴染みのパシフィコ横浜ですが、“ノース”は初めてだったので場所を検索してみますと、あのすごく遠いアネックスのさらに向こうという立地で、これは辛い！と、皆様も思うことでしょう。そこで考えました。どうせ密を避けなければならないし「ホテルは繁華街ではなくても良いのではないか」「そしていつもと違う横浜も良いのではないか」ということで、再開発真っ只中で、あのKAHARA Resort Hotelも開業した新高島周辺であれば、会場までは徒歩圏内でしたので、そこをチョイス。結果的には良いホテルにお安く泊まることが出来ました。ですが、暑い！溶けそうなくらい暑い！！Web参加で良かったのでは？などと少々後悔しながらも、会場に向かいました。

すると、結構現地での参加者も多く機器メーカーの展示もあって、やっぱりこれだよなーと思いながら、様々なセッションを拝聴しま

した。特に印象に残ったのは会長講演で、ロータブレーターの施設基準緩和の裏話から FFRCT の施設基準の見直しの話など、普段は聞けない裏事情、どのようなことをしなければ施設基準は変わらないのかを知ることができました。そして、学会のトップは常にファイターである必要があるという事も学びました。この辺りに関しては、ご興味のある方には個別にお話しますね。

さて、前置きが長くなってしまいましたが、私が担当したセッションはコメディカル一般口演「教育・体制」でした。循環器領域では、より専門的な知識や技術が求められる場面が多いため、多くの施設で同じような悩みを抱えていると思います。今回の演題では心臓 MRI の習得に関するトレーニングや、door to balloon time を短くするための取り組み、夜間緊急カテにおける急変時対応など、とても興味深いお話を聞くことが出来ました。

また、最近話題のタスクシェア・タスクシフトに関しても、医師との合同シンポジウムという形式で行われました。とにかく拘束の多い循環器医師にとって、コメディカルへのタスクシフトがなければ働き方改革は実現しないという事で、強く熱望されているとのお話もありました。診療放射線技師領域に関しては、小倉記念病院の一ノ瀬様が、現在我々が出来る事、今取り組んでいることなどを解りやすく解説して下さいました。どの病院も、これから真剣に考えなければならぬ事ですね。

会期は土曜日まででしたが、北海道へリカル CT 研究会の開催日と重なっていたため、CT のシンポジウムには参加できず早朝に帰札というスケジュールでした。

新高島といえば“アンパンマンミュージアム”のある街です。空き時間にアンパンマンを激写し、2人の孫のために名前刺繍入りのエプロンを購入するといった難易度の高いミッションを達成した事もお報告致します。

